



BMT 神奈川の HP はこちら

# 虹

題字：慈雲老大師（円覚寺派前管長）

■編集・発行／神奈川骨髄移植を考える会（略称：BMT 神奈川）

〒254-0042 神奈川県平塚市明石町 24-25-309 黒部設計事務所内 発行責任者／村上忠雄

TEL:090-4713-7300 FAX :0463-25-1383 <https://www.bmtkanagawa.com/> E-mail:bmtnoniji@yahoo.co.jp

■日本骨髄バンク <http://www.jmdp.or.jp> ■全国骨髄バンク推進連絡協議会 <http://www.marrows.or.jp>

## 2022 年度神奈川骨髄移植を考える会 総会の報告

6月18日オンラインで開催され、2021年度事業報告と収支報告、2022年度事業計画と予算はすべて承認されました。（ハガキ28名、Zoom参加23名）

3月にはオミクロン株の第6波が猛威を振るう中で通常の活動は全て自粛しましたが、感染防止対策を徹底しドナー登録会を再開しました。また収束後の再開に向けて役員会、定例会はZoomで開催し情報共有と意見交換を行いました。更に神奈川県と共催で「骨髄ドナー登録説明員養成講座」、かわさき市民活動センターからの助成金により医療用ケア帽子「コットンキャップ」事業を実施しました。ここ数年は説明員養成講座の修了者が当会に入会され、ドナー登録会はもとより、様々な活動に

チャレンジし活動の輪が広まっており、楽しく活動を進めて行きたいと思います。 会長：村上 忠雄



### BMT 神奈川令和3年度収支決算報告

（令和3年6月1日～令和4年5月31日）

#### 《収入の部》

項目	R3 年度決算	R3 年度予算
会費	281,000	310,000
寄付金	421,000	400,000
募金	132,423	30,000
事業収入	33,300	600,000
販売収入	59,950	30,000
雑収入	104,525	19,571
かわさき市民公益活動助成金	188,800	188,800
かわさき市民公益活動助成金（組織基盤強化）	300,000	
小計	1,520,998	1,578,371
前年度繰越金	1,871,629	1,871,629
合計	3,392,627	3,450,000

単位：円

#### 《支出の部》

項目	R3 年度決算	R3 年度予算
事業費	180,384	800,000
会議費	10,844	10,000
全国協連費	120,000	120,000
通信費	202,934	210,000
広報・印刷費	181,752	150,000
物品購入費	0	100,000
事務用品費	34,650	30,000
事務局費	170,000	170,000
交際・雑費	3,172	10,000
寄付金	0	20,000
かわさき市民公益活動助成金事業活動費	252,647	236,000
かわさき市民公益活動助成金（組織基盤強化）活動費	301,063	
予備費	0	1,594,000
小計	1,457,446	3,450,000
次年度繰越金	1,935,181	
合計	3,392,627	3,450,000

単位：円

## オンライン骨髓ドナー登録説明員養成講座の開催

コロナ禍以前は対面で開催されていた養成講座ですが、オンライン（Zoom）で開催することでご自宅や職場から参加していただけるようになりました。神奈川県と赤十字血液センターの共催で1回、ライオンズクラブ 330-B 地区の依頼で1回、全国青年会議所からの依頼で1回、その他個別に7名の方へ養成講座を開催しました。

主催する我々ホスト側もプログラムなどを見直し、時間短縮とスムーズな講座になるように工夫しました。次回の神奈川県共催のオンライン養成講座は、11月5日 13:00~15:30 を予定しています。

### 神奈川県共催 6月25日 12名



### ライオンズクラブ 330-B 地区 5月30日 11名



今回は応募者が少なく心配しましたが、神奈川県に締め切りの延期をお願いし、会員にもお知り合いなどに声掛けを依頼して、開催することができました。

また、滋賀県庁から養成講座を見学したいとの依頼がありオブザーバー参加をしてくださいました。オンラインによる養成講座という神奈川県方式が広がっています。

### 全国青年会議所 5月30日 9名



## 新しい仲間と“お顔合わせ会”

養成講座を受講し説明員として当会に入会された方を対象に、3回に分けてオンラインでお顔合わせ会を開催しました。「都合のいい時に楽しく活動しましょう」とお伝えしたものの、どうやって活動をするのか戸惑っていたかもしれません。お話をすることから始めましょう。

### 8月27日(土) 参加4名



自己紹介の後でそれぞれの想いをお話しました。話は広報の大切さについてになり、献血に来られた方や小・中学校などで血液の病気について理解してもらえよう活動を広めましょう、と意見が一致。それぞれが心当たりを探してくださることになりました。

### 9月6日(火) 参加2名



「何かできることがあればお手伝いしたいので入会しました」とのこと。こうして参加していただくことが、その第一歩です。

### 9月19日(月) 参加3名



会のHPを画面共有し、エントリー方法をご説明しました。つい先日、説明員デビューをした感想をお聞きして、デビュー前の会員さんの不安を和らげて頂くことができました。

# 医療用ケア帽子コットンキャップの販売が本格始動

～当会の活動の一部として管理・運営しています～

## ▶活動報告

昨年度、川崎市の助成金を受けて基盤を作ったコットンキャップの活動は今年度スタート時点で在庫を 200 枚ほど抱えていたので、はてさてどうしたものかと思案していました。まずは自分が通院している横浜市立大学附属病院の売店に置かせてもらえないか話をしてみようとお泊なし突撃営業をしました。幸い話がスムーズに進み 4 月から店頭販売が始まり、それを皮切りに横浜市立大学附属市民総合医療センター、県立がんセンターと販路が広がっています。

現在、病院の販売数は、買取販売で横浜市立大学附属病院 34 枚、横浜市立大学附属市民総合医療センター30 枚、委託販売で神奈川県立がんセンター35 枚です。



神奈川県立がんセンター



横浜市大センター病院

有志メンバーで月に一度ほど神奈川県民サポートセンターに集まり、納品するための商品のパッキングや、サポーターさんに製作していただく生地の準備など楽しく作業をしています。サポーターさんも意欲的な方が多く、秋には新しいデザインを追加予定です。



治療中の方へ、「ひとりじゃないよ！応援しているよ！」という気持ちを込めて作っているコットンキャップ。まだまだ輪が広がりそうな予感がします。

ご興味のある方ぜひ一緒に活動しませんか？(小野里)

## ▶公益財団法人さわやか福祉財団へ助成金の申請

地域助け合い基金 15 万円を受け取りました。9 月 3 日、メンバー 5 人と日暮里の生地屋街へ買い物ツアーに行きました。商店街の端から端まで、開店から閉店まで隈なく周り、いろいろな色柄の生地を仕入れることができました。楽しい時間を過ごしたことで、よりよい商品をお届けする決意を新たにしました。

## ▶ネットショップで販売しています

約 50 点の品揃えで、生地はコットン 100%。色・柄とサイズを多数そろえています。是非一度、ご覧ください。8 月現在ネット売上は 36 枚です。

販売価格は、ベーシックタイプが大人用送料別 1 枚 1000 円、子ども用 500 円です。



## ▶コットンキャップの会の HP



抗がん剤治療などで脱毛に悩む方へ少しでも前向きに進んでほしい。そんな思いを込めて。治療を乗り越えた私たちからあなたにエールを送ります。



## ▶神奈川県立がんセンターへ寄付しました



昨年度作り手さんとして大活躍していただいたロバ君倶楽部の有志メンバーさんよりお預かりしていたアイマスク、ヘアターバン、ミニバッグを県立がんセンターへ寄付させていただきました。

## 北鎌倉 島唄紀行チャリティーコンサート

♪ 笑うウクレレ in 白雲庵 ♪

RTH プランニング主催のコンサートが、北鎌倉円覚寺塔頭の白雲庵で6月26日に行われました。RH プランニングの天 法楽様からは、長きにわたりコンサートの収益金の一部を当会にご寄付いただいています。白雲庵は、BMT 神奈川主催のチャリティーコンサートの会場としてお世話になった場所でもあります。梅雨明け前の暑い日でしたが、白雲庵内はゆったりとしていて外の暑さを感じさせず、仏様に見守られた素晴らしい会場でした。今回参加した11名の会員の中には、かつて三線を習っていた人、ウクレレを練習中の人や沖縄出身者なども。心に届く歌あり、落語あり、寅年タイガー（大河）ドラマありの盛沢山。ちむどんどんしながら楽しませていただきました。言葉の達人、天 法楽様のオヤジギャグ満載のライブに、コロナ禍の中、久しぶりに大声で笑った方も多かったと思います。そして最後はもちろん、みんな揃ってカチャーシー♪と、楽しいひと時を過ごしました。



次回の北鎌倉島唄紀行コンサートは11月3日（木・祝）です。

皆さんでおなかを抱えて笑い、コロナを吹き飛ばしましょう！

（小沢）

## 未来を守れ in BOSEN

秋晴れの9月17日、横浜市防災センターでの、幼少期の子どもたちを対象にしたイベントに出展しました。お子様連れのご家族が多く、はし



ご車の乗車体験、協賛企業さんの防災用食品の配布などで賑わいました。私たち BMT 神奈川は、「骨髄バンクは人の未来を守る」として、ステージでもドナー登録の大切さを話しました。（原子）

## 大谷貴子さんからの虹

—6月9日、黒岩祐治神奈川県知事に会わせていただきました。しかも1対1です!!! せっかくですから、日頃より骨髄バンク事業にご尽力いただいている皆さまにこのことをお伝えしたくて寄稿させていただいた次第です。（寄稿文より）

全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長の大谷貴子さんは、骨髄バンク事業だけでなく、医療に携わる諸問題に取り組んでいらっしゃいます。姪御さんを32歳という若さで亡くされたことで、【AYAがん患者さんの在宅緩和ケア制度の不備】【病室にフリーWi-Fiが無い】という大きな宿題を残されたと思ったそうです。

持ち前の行動力と情報発信力で辿り着いたのが、黒岩祐治神奈川県知事でした。1対1の面会で宿題を成し遂げたあと、さらなる3つの課題についてもお願いをされたそうです。

【骨髄バンクのさらなる啓もう活動】【「横浜こどもホスピス うみとそらのおうち」への支援】【男性トイレにサニタリーボックスを】

\*\*紙面の都合でご紹介できませんので、当会HPに全文を掲載します。是非ご覧ください。（原子）



## 横浜市庁舎アトリウム登録会

7月26日のドナー登録会は横浜市庁舎でした。アトリウムのモニターには、いつもは観光スポットなどが流れていますが、この日は、「あれ?! なんか見た事があるぞ」という映像が…。ドナー登録について簡潔にわかりやすく、気持ちに入ってくる内容の、骨髄バンクの公式な普及啓発動画です。市庁舎のモニターは大画面のうえ、1日中エンドレスで流していただき感動、その日は嬉しい登録会となりました。他の公共施設、学校などでも流してもらえたらと思いました。（千代延）





BMT 神奈川は人材の宝庫！会の財産でもあり、いつも誰かのために頑張ってくれている会員ひとりひとりにスポットを当て、その貴重な闘病経験を含めた生きる姿や想いを、広く内外にご紹介する企画としてスタートした【2度の骨髄移植を経験した原子が会員に聞く】シリーズの第5弾です。

柔らかい色の花は、芯に行くほどきりりと固く、強くなるからブレずにいられるのだろうか。その圧倒的な安定感と誠実さは期待を裏切らずそして人を選ばない。移植以外に誰かに心配をかけたことなどないのでは？と思わせてくれる女性です。今は故郷に戻り、BMT 神奈川にいた頃と同じに、ドナー登録説明員として骨髄バンクのボランティアに携わり、さらに骨髄バンクのドナーコーディネーターとしての活動も続けています。そして、故郷の滋賀県と神奈川県を繋ぐ架け橋になってくれている存在、今回はそんな「くもりあいこ」さんにお話を伺いました。



## 架け橋



### ◆「滋賀に戻る」

まず感じたことは「人が優しい」です。

神奈川にいた頃もそれはありましたが、土地柄という言葉で表すように、風景はもちろんのこと、やはり空気感が違うと感じました。



友達も多く住んでいますし、母との同居、育った故郷という安心感はとても大きいですね。

### ◆「白血病です」

病名を聞いた時は、ことの深刻さより、「ちゃんと治療が始められる」という安堵感の方が大きかったです。

2017年の年明けぐらいから微熱が出始め、薬を飲めば翌朝には落ち着いて仕事に行けるのですが、また熱が出るという繰り返し。次第にその頻度が増すようになり、なんとなく体もだるく、当時の職場で血液検査をしてももらいましたが、特に悪いところは見つからないとのことでした。ただひとつだけ少し気になる数値があるとのこと、大学病院を紹介してもらい、様々な検査を受けるも原因がわからず「不明熱」ということで通院検査を続けていました。ある日の検査で結果が出る予定の日より前に主治医からお電話があり、「悪いものが見つかったのでとにかく今すぐ入院してください！」とのこと。

その電話で病名を告知されたのですが、入院は翌日まで待ってもらいました。病名を聞いたその日、当の本人とは裏腹に、家族は落ち着かない様子で、1日中家の中をうろうろしたり涙したりと大変でした。病名が深刻そうなだけに、仕方のないことだったと思います。

「骨髄性とリンパ性の混合の白血病でフィラデルフィア染色体が・・・」などの聞き慣れない言葉の羅列、そんなこんなでやっと病名がわかったのは、微熱が出始めてから約8か月後のことでした。

### ◆「治療開始」

さらに詳しい検査結果を待ち、抗がん剤と輸血での治療が始まりました。「頑張るぞ！」と自分に気合を入れるためまずはピース！

割に強い抗がん剤だったようですが、最初のうちは心配していた副作用も何とか乗り越えることができました。ところが2クール目の抗がん剤がとても辛くて、このまま命を失ってしまうんじゃないかとさえ思いました。この時が、治療を通して1番辛かったと思います。



再発しやすいので移植をとの主治医の勧めで、移植のできる病院へ転院し、骨髄バンクへ患者登録をしてドナーさんを待つことになりました。ある日、いつもは冷静な主治医が病室に走って来ました。骨髄バンクに私とHLAの型の一致するドナーさんが1500人います！というお話。その人数に1番驚いたのは、ほかならぬ主治医だったのかもしれない。

### ◆「もう2度とこんな姿は見せない」

個室でしたが寂しいということもなく、体調のいい時は持ち込んでいた大好きなサスペンスの本を読んだり、撮りためておいたテレビ番組を観て過ごしていました。

そんな中、なによりも一番の大きな支えになったのはやはり家族の存在です。夫は仕事帰りなども面会に来てくれていましたが、娘は学校とアルバイトがあったので会える日は少なかったと思います。そんな中でも頑張って



会いに来てくれて、帰り際には必ずハグして別れました。その寂しそうな後姿は今でも忘れられません。その娘に、吐き気でゆがむ顔を見せてしまったことがあります、彼女は泣いていました。その時に、「母が病気になったことだけでも心配をかけているのに、さらにこんな辛い思いをさせてしまっている。もう2度とこんな姿は見せない!」と決めました。そしてその思いのおかげで病気と闘う事ができました。

#### ◆「最後の一滴まで」

いよいよ移植の日、病室に届いた骨髄液の量の多さに驚きました。患者経験者の方ならわかると思いますが、検査用の少量の骨髄を採るだけでも痛みが伴います。それを考えると、初めて見るドナーさんの骨髄液は抱きかかえられるほどの量で、驚きと感謝でいっぱいでした。午後2時から始まった移植が終わったのは約5時間後。見守ってくれていた家族も疲れたのでしょう。途中、カフェに行って休んだりしながら応援してくれました。



その日、特に心に残っていることがあります。移植が終わる頃、「最後の一滴まで入れますね」と、骨髄液の入ったバッグを絞るように丁寧にやってくくださった主治医の言葉です。お仕事柄、ドナーさんの骨髄採取もするので、「ドナーさんの善意を無駄にしないよう」、そして患者の私には「一日も早く生着するように」というお気持ちが伝わり、とても嬉しく温かい気持ちになりました。

#### ◆「ドナーさんのことは忘れていいのよ」

忘れもしない退院の日、お世話になった無菌室の看護師さんから贈られた言葉です。「ドナーさんからいた

だいた命に感謝してこれからを大切に元気に生きていこう!」と思っていた私は最初驚きました。でも、その意味を考えていくうちに、この短い言葉の中に、私たち患者に対するどれだけの深いエールが込められているのかを思い、胸が熱くなりました。「いつまでも病気にとらわれず、ドナーさんのことを忘れるくらい元気になってね!」という意味だと気づいたのです。

#### ◆「よりドナーさんに近いところで」

この病気になったことで、「よりドナーさんに近いところで何かしたい」との思いが芽生えました。入院中にインターネットで見ていた骨髄バンクのHPには、ボランティア募集の他に「ドナーコーディネーター募集」の文字。それが骨髄バンクのドナーコーディネーターを指したきっかけです。私にとって感謝してもしきれないドナーさんと、私と同じように病気と闘いながら移植を待つ患者さんの橋渡しのできる活動だと思い、応募しました。

#### ◆「コーディネーターとして活動してみよう」

実際にコーディネーターとして現場に立ってはじめて、「私のドナーさんも同じように、大きなプレッシャーと闘いながら提供して下さったのだろうか?」との思いに至り、今まで以上にドナーさんに対する感謝の気持ちが強くなりました。

私たちコーディネーターは守秘義務があるので多くは話せませんが、コーディネート開始から無事に退院するまでがひとつの区切りとなります。退院の日



ドナーさんをお迎えすると、「くもりあいこさんにコーディネートしていただけて良かった!安心して提供できました。」とお言葉をいただくこともあります。ドナーさんが無事に退院できた安心感と合わせて、それが一番嬉しい瞬間です。

これからも、ひとりでも多くの患者さんとドナーさんとの橋渡しができるよう、誠意をもって活動していきたいです。

◆「滋賀骨髓献血の和を広げる会(通称：和の会)」

滋賀県にも通称「和の会」という骨髓バンクのボランティア団体があります。1994年に設立された由緒ある団体で、神奈川にいた時からその存在だけは知っていました。ゆくゆくは夫婦で故郷に戻る予定にはしていましたが、まさかこんなに早くその日が訪れて、しかも自分が和の会に入会して活動することになるとは思いませんでした。



会員さんはBMT神奈川と同じに思いの強い方々で、県内全域で活動しています。

滋賀県は全国に比べて新型コロナの感染者が割に少なかった

こともあり、年に4回ほど、対面での骨髓ドナー登録説明員養成講座を開催しているそうです。先日は、大学生向けに、同講座のお手伝いをさせていただく機会があり、嬉しいことに6名の学生さんが入会してくださいました。



これからも、和の会での活動を通じてひとりでも多くの方に骨髓バンクやドナー登録のことを知っていただけるよう、そして少しでも会のお役に立てるよう、地道に頑張っていきたいと思っています。そして、BMT神奈川との交流もできたらと思っているので、神奈川の皆さま、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

+++++



◆ インタビュー後記

初めて聞くお国訛りが心地よく響いて、優しい時間が流れました。コロナ禍ではZoom会議が多かったこともあり、会えていないという実感はなかったのですが、地元に戻って暮らしているということを感じた日でした。BMT神奈川では30周年記念誌の写真を編集。また会の動画製作を担い、その多くの作品はHPで公開され、ご自身も講師を務める骨髓ドナー登録説明員養成講座で毎回使わせてもらっています。ドナーさんにとってのコーディネーターさんは、人知れず自分がやった行いの最初から最後まですべてを見届けてくれる唯一の存在ではないかと感じました。患者さんとドナーさん、そして

◆ 「普通の生活に感謝

母が元気になったからこそ」



私が21歳のころ 母が急性リンパ性白血病に突然の母からの「白血病」という言葉に頭が真っ白になった それってガンだよ？ 母はどうなってしまうのだろう？ 死んでしまうのだろうか？ 毎晩泣いていた生まれてきてから大きなケガや病気もせず 家族みんな健康だったのに。。。 お見舞いに行くとたくさん針に刺された状態の母 抗がん剤治療 毎日毎日つらかったよね なのにお見舞いに行くと 毎回笑顔で迎えてくれる母 母が頑張っているのだから 私も頑張らなくてはいけない 大切な家族のために 全力で病と闘ってくれた母 ドナーさん 母の命を救ってくれて本当にありがとう 大きな病に罹って気付く 日常生活を当たり前で過ごしていることが どれだけ幸せなことか あれから3年経った今も健康でいられるのは 母の頑張りや家族の絆 当たり前で生活できて 健康であることに 日々感謝して生きていく

—2021.03.25—

☆娘さんが贈った移植後3年の動画より☆

滋賀県の「和の会」と私たちBMT神奈川の橋渡しをしてくださっている「くもりあいこ」さん。他にも滋賀に戻ってから繋がった不思議なご縁がいくつもありました。「神様が敷いたレール」という言葉を聞きます。人には望むと望まないとにかかわらず、生まれ持った役目というものがあるのかもしれないということを強く感じたインタビューでした。これからもいろいろな繋がりが生まれることと思います。本当にありがとうございました。感謝を込めて。(原子)

◆登録会実施結果

実施月	開催場所(開催日)	登録/説明
4月	4/11~30 計9回	126/171
5月	ノジマモール横須賀店前 (5/1,8,22)	24/29
	JA さがみ茅ヶ崎支店 (5/2,5)	18/26
	京急横須賀中央駅前 (5/6)	8/10
	海老名中央公園 (5/7)	13/15
	小田原ダイナシティイースト (5/8,21)	8/15
	北里大学相模原キャンパス (5/9,23)	41/59
	座間市役所 (5/12)	6/10
	綾瀬市役所 (5/13)	3/3
	相模原市役所前 (5/13)	2/2
	本厚木駅北口 (5/14)	11/14
	京急横須賀中央駅前 (5/15)	10/13
	東京工芸大学 (5/16)	16/20
	神奈川県庁舎 (5/23)	4/5
	横須賀商工会議所 (5/26)	7/9
JR鶴見駅西口フーガ前 (5/28)	11/15	
6月	アビタ長津田店 (6/3)	4/4
	平塚駅北口 (6/4)	6/11
	山下公園 (6/4)	12/12
	京急横須賀中央駅前 (6/5)	8/12
	小田原ダイナシティイースト (6/5)	4/4
	ソニー(株)厚木第1/第2TEC (6/8)	4/7
	イトーヨーカ堂立場店前 (6/19)	11/17
	防衛大学校 (6/23,24)	30/32
	フレスポ小田原シティモール (6/26)	8/9
麻布大学 (6/29)	19/25	
7月	北里大学相模原キャンパス (7/1)	19/27
	本厚木駅北口 (7/2,17)	16/21
	JR鶴見駅西口フーガ前 (7/2)	10/12
	小田原ダイナシティイースト(7/3,24)	14/18
	JA さがみ茅ヶ崎支店 (7/4)	8/13
	専門学校神奈川総合大学校 (7/4)	4/6
	相模原市役所前 (7/5)	6/9
	ノジマモール横須賀店前 (7/9,23)	15/20
	戸塚区役所 (7/12)	6/8
	川崎市役所第三庁舎 (7/12,13)	10/14
	パンフィコ横浜日本青年会議所(7/16)	13/13
	京急横須賀中央駅前 (7/16,31)	11/14
	ニッパツ三ツ沢球技場 (7/17)	3/8
海老名市役所 (7/21)	3/3	
川崎市麻生区役所 (7/25)	7/9	
横浜市役所 (7/26,27)	13/17	
8月	JA さがみ茅ヶ崎支店 (8/1,11,15,22)	20/34
	横須賀市役所 (8/1,2,3)	16/19
	本厚木駅北口 (8/3,17)	12/17
	アビタ長津田店 (8/5)	2/3
	ノジマモール横須賀店前 (8/7)	8/11
	神奈川県庁舎 (8/9,10)	12/15
	大船駅東口 (8/11)	5/8
	海老名中央公園 (8/12)	8/11
	小田原ダイナシティイースト (8/14)	8/9
	神奈川県立こども医療センター(8/19)	10/12
	南足柄市役所 (8/19)	5/6
	京急横須賀中央駅前 (8/21)	10/12
	桜木町駅前 (8/28)	8/10
川崎市中原区役所 (8/31)	8/9	

◆献血ルーム登録数集計 (R4年5月~8月12回)

	かわさき ルフロン (4回)	横浜駅東口 クロスポート (4回)	横浜 Leaf (4回)
合計	25/37	35/38	37/52
累計(H27/5~)	752/948	826/1069	468/594

(登録数/説明数)

◆日本骨髄バンクの現況 (R4年8月末現在)

骨髄バンクデータ集より	全国	神奈川県
ドナー登録者数	540,451	27,341
患者登録者数	1,686*	60
移植実施数	26,957*	1,792

※海外を含む

《ご寄付 & 募金のご報告》

みなさまありがとうございました

大塚 安宏様	5,000円
川崎西間税会様	10,000円
望月 恵子様	7,000円
笠原 光子様	3,000円
鈴木 茂様	27,000円
関 清様	10,000円
高橋 道子様	10,000円
岩崎 眞一郎様	100,000円
天 法楽様	70,000円
森 八重子様	10,000円
増田 明雄様	51,000円
青空マーケット IN あさお募金箱	1,360円

私たちの活動は善意のご寄付で支えられています。  
ご協力をお願いいたします。

++寄付の振込先++

- ◎ゆうちょ銀行から  
郵便振替口座：00230-8-55751  
加入者：神奈川県骨髄移植を考える会
- ◎銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合  
支店：〇二九(ゼロニキュウ)支店  
当座 0055751  
口座名：神奈川県骨髄移植を考える会

本紙に掲載されている個人名や金額につきましては  
ご本人の承諾をいただいております。

ビル建物総合管理・施設警備

有限会社 白朝サービス社

神奈川県横須賀市汐入町 4-28

TEL : 046-825-7180 FAX : 046-825-7163

【はみ出し編集後記】

編集部都合で今号の発行が遅くなりました。P1：今年度も総会は Zoom で開催。P2：お顔合わせ会は楽しい時間でした。P3：コットンキャップは順調に活動しています。P4：大谷さんの寄稿全文は当会 HP で。P7：娘さんの動画も当会の HP でご覧になれます。P8：登録会は感染に注意して開催しています。(な)